

マタイによる福音書7章7節～12節

07:07「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。07:08 だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。07:09 あなたがたのだけれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。07:10 魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。07:11 このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。07:12 だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」

説教 『求めなさい。そうすれば、与えられる。』

◆今日の聖書の箇所は、イエス様の『山上の説教』の一部です。マタイによる福音書の5章～7章を『山上の説教』と呼びます。そして7章12節に「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である」とありますが、これを特に『黄金律』と呼んでいます。『黄金律』とは『最も大節な教え』という意味ですが、「これこそ律法と預言者である」というのは、旧約聖書のことです。つまり、聖書の最も大節な教えは、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」ということでもあります。ですから、今日初めてお見えになった方も、古くからの信者さんも、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という教えが『黄金律』、聖書の最も大切な教えであるということ、銘記して頂きたいと思います。

◆ところでこのピンク色の紙ですが、皆さん、受付でお取り下さいましたでしょうか。まだの方には受付当番の方、お配りくださいますか。これは5才で餓死した結愛ちゃんが、ノートに書き残したものです。この事件は、先日来、毎日のように報じられた痛ましいニュースです。結愛ちゃんが死んだのは、確か3月2日だったと思います。しかし、これが報じられたのは今月に入ってからです。5歳の結愛ちゃんが亡くなったのが、親の虐待による餓死、衰弱死であったことが分かり、両親が捕えられ、警察が調べに入り、このノートが見つかったのです。結愛ちゃんは義理の父親から、朝の4時に起きて、体重を計り、平仮名と片仮名のけいこをするように命じられ、5歳の幼児がそれを励行するのですが、食べるものは、ろくに与えられなくて、虐待を受け、死んだのです。その結愛ちゃんが、お母さんあてに書き残した、嘆願書がこの文書です。余りにも痛切です。どうか、今日の『黄金律』と結愛ちゃんの『嘆願書』を、今日の記念にして頂きたいと思います。先週月曜日の朝に起きた『大阪北部地震』の衝撃も、相当強かったですが、わたしにとっては、この結愛ちゃん事件と、この結愛ちゃんの「言葉」の方が、もっと衝撃的でしたし、生涯、忘れるできないものになりました。以下に記して記念といたしましょうか。

5才で餓死した結愛(ゆあ)ちゃんのノート

「ママ もうママとパパにいわれなくても しっかりと じぶんから もっと もっと きょうよりかあしたは できるようにするから もうおねがい ゆるして ゆるしてください おねがいます ほんとうにもう おなじことはしません ゆるして きのうまで ぜんぜん できてなかったこと これまで まいにち やって きたことを なおしますから これまで どんだけ あほみたいに あそんだか あそぶって あほみただから やめるから もうぜったい ぜったい やらないからね ぜったい やくそくします 」

◆今日は親子合同礼拝ですから、そこに「愛衣(めい)ちゃん」も一緒に礼拝を守っておりますが、愛衣ちゃんも5月生まれで、5才です。先々週の日曜学校の時に、愛衣ちゃんに、この結愛ちゃんの言葉を読んでもらいました。こんなにかわいい5才の幼児がこの文書を、生きるか死ぬかというギリギリの状態、必死に書いたのですね。

◆わが国・日本は、経済大国ですから、多くの国々に経済支援をすることができ、頼られている面は確かにあるのですが、しかし、道義的というか、精神的には、世界の笑いものになっているのではないのでしょうか。ある意味で国を代表する首相を、国民の大半が責任をとって辞任すべきだと言っているのに、黒を白と言い張って、その地位に居座っています。官僚たちも、忖度して、公文書を改ざんして、首相の援護射撃をしています。情けないというか、日本は世界の笑いものになっています。それこそ結愛ちゃんの言葉をわが言葉として、潔く退陣を決意するならば、また再起の機会もあるでしょうが、このままでは、腐敗政治が続きます。しかし、そういう私たちが、この国の国民なのです。まず、自を省みて、出直さなければならぬのは、わたしであり、わたしたち各自ではないのでしょうか。

◆今回の『結愛ちゃん事件』は、もう一方の日本の闇・恥部をさらけ出したと思います。親が親としての自覚も責任感もなく、わが子を虐待し、死に追いやった姿を、世界にさらけ出したのです。しかし、計らずも、この『結愛ちゃん事件』は、この結愛ちゃんの言葉は、この5歳の幼女に宿った、この命がけの言葉は、日本の未来を方向付ける言葉として、また5才の幼女に宿った「日本の知性」として、世界の耳目を集める痛切な事件となったのではないのでしょうか。

◆戦後まもなく「一億総懺悔」ということが、皇族の東久邇稔彦総理大臣によって提唱されました。つまり、「敗戦の責任は、不忠で、不甲斐ない臣民、国民のせいだとして、天皇に謝罪する」という意味で使われました。今回の結愛ちゃんを死に至らせたのは、愚かで、不甲斐ない、我々のせいだ。掛け替えのない尊い命を、このように虐待死、死に至らせたのは、人のことを思わず、自分さえ良ければよいとする愚かな自己中心が、結愛ちゃんを死に至らせたのです。それこそ一億の大人達が、結愛ちゃんの言葉を己が言葉として、総懺悔しなければならぬのではないのでしょうか。私達は、結愛ちゃんの死を犬死にしてはならないと思います。

◆それにしましても今日の聖書の言葉は、多くの人々に最もよく知られ、信じられてきたイエス様のお言葉であります。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる」と主イエス様はおっしゃり、約束なさいました。私は、高校3年生のクリスマスに洗礼を受け、この道に入れられました。今年12月のクリスマスがまいりますと60年です。この間、聖書に記された神様の御言葉、主イエス様の御言葉を信じ、頼みとして歩んでまいりました。そして、現在77歳です。この間、どうしてこんなことが起るのだろうかと思うことは、人並みに幾度もありました。しかし、今、翻って見ると、「しかし、神様に裏切られることは一度もなかった」と言えます。むしろ、自分が求めたことよりも、更により仕方で、神様はこのわたしの求めに答えてくださったというのが、実感です。

◆そのような中で、私たちは、この結愛ちゃん事件に遭遇したのです。結愛ちゃんは本当に、必死になって、願い求めたのです。この事件を担当した警察官が、この事件の経過の報告会見の中で、この文書を読み上げたそうですが、涙が溢れてまともに読めなかったそうです。余りに痛切で、痛ましい。もし、神様が居られるのならば、イエス様のおっしゃったことが本当ならば、何故、この結愛ちゃんの必死な願いを聞いてくださらなかったのですかと、問いたい。神様に不可能なことは何もないのならば、ひどい結愛ちゃんの両親を回心させればよいだけの事ではありませんか。大阪のおばちゃん流に言えば、「神さん、何か言う事あるんやったら、言うてみなはれ」と、立膝ついて、直談判したくなるのではないのでしょうか。

◆実は、イエス様が、十字架に架けられて死刑になられた時、十字架上で発せられたお言葉が七つあったと伝えられています。『十字架上の七言』と呼んでいます。新約聖書の4つの福音書が伝えているものを足すと、七言になります。しかし、新約聖書冒頭のマタイによる福音書と、一番古い福音書とみなされているマルコによる福音書には、同じ、たった一言しか、記されていません。そしてそれは「わが神、わが神、なぜ、わたしをお見捨てになったのですか」という、一言です。こう叫んで息を引き取られたと書かれています。当時の人々は、このイエス様を本当に愛し、慕いました。この方こそ、「約束されたメシア=救い主」と本当に信じ、従ったのです。正に、イエス様その方に神様が現臨され、同居されていることを見、感じたのです。ですから、人々はイエス様のことを「神の独り子」と信じて、疑わなかったのです。ところがそのイエス様は、十字架に架けられて、ただ一言、「わが神、わが神、なぜ、わたしをお見捨てになったのですか」という、このたった一言発せられて、息を引き取られたのです。

◆それで、古来、そして、現在でも、キリスト教に対する、諸宗教、諸哲学、諸思想からの批判があるのですが、共通しているのは、「世の救い主ともあろう者が、その終りに際して、『わが神、わが神、なぜ、わたしをお見捨てになったのですか』などと、情けない叫びしか発せられないような人間が、どうして、世の人、全人類の救い主であることなど、どうしてあり得ようか」とさんざん批判され、馬鹿にされています。そのことは現在も変わりありません。

◆それで、イエス様が30代の半ばで十字架で死刑になられる前の数年間にお語りになり、教えられた御言葉の中に、今日の言葉と「黄金律」があるわけです。「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である」と、仰ったのです。人間というものは、たった一つの狂いで、地獄に落ちるんです。普通はまともであるのですが、たった一つ狂うことがあるのです。それが人間の生の姿です。そして、その一つの狂いが起きるのには、そこに至るその人の人生、歴史、事情、経過があるのです。そして、ある時、狂いが生じるのです。いずれにせよ、どう見ても、結愛ちゃんは、可哀そうなんです。そうなんです、なぜ、この義父と実母が、こんな酷いことをするに至ったのか、その事情は、まだ、報道されていません。人間というのは、悲しいものですね。一つ狂って、人生を駄目にしてしまうのです。

◆ところで、今も触れた十字架上の言葉、「わが神、わが神、なぜ、わたしをお見捨てになったのですか」という言葉ですが、この言葉は、旧約聖書の詩篇第22篇にある言葉なのです。そして、この叫びに続いて、「ですが神様、わたしたちの先祖はあなたに依り頼み、依り頼んで、救われて来ました。助けを求めてあなたに叫び、救い出され、あなたに依り頼んで、裏切られたことはありません」と。イエス様も人の子です。十字架上の苦しみの中で、この後半の言葉をすらすらという事はできません。それで、誰であれ、自分自身で、その痛み、苦しみを経験してみても初めて、人の痛み、苦しみを、身をもって思い遣ることが、できますね。勿論、人生、自分から求めて、苦しみの中に飛び込むことはないのですが、苦しみの中に突如落ちるのが人生ですね。先週月曜日の「大阪北部地震」でブロックの下敷きになって亡くなった高槻市立寿栄小学校4年生の三宅璃奈ちゃんも本当に可哀そうですね。いずれにせよ人は、自ら理不尽と思える痛み、苦しみを経験してみても初めて、他人の痛み、苦しみを思い遣ることができるのです。

◆ですから、十字架に架けられて、神様に見捨てられたと思えるような苦しみを経験されたイエス様にして初めて結愛ちゃんの苦しみが、全部お分かりになるのではないのでしょうか。私は、イエス様は、この結愛ちゃんの、この痛み、苦しみ、訴え、叫びをすべて、自らも痛み苦しみつつ、結愛ちゃんを抱きかかえて、パラダイスに、楽園にお連れくださったと信じます。それ以外のイエス様は私のイエス様ではありません。私が出会い、信じ、頼み、この60年間、その御跡を歩んでまいりました救い主イエス様こそは、そういう御方であります。イエス様を信じて裏切られることは絶対ありません。

◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。

あなたは、わたしたちの救いのために、御独り子・イエス様をさえ犠牲にされることを惜しまれない、憐れみに満ち給う御方であります。その御方が、訳もなく、僅か5歳の幼女結愛ちゃんをこのような死にあわせ給うとは、信じがたい事であります。どうか、わたしたちがこの結愛ちゃんの酷い犠牲の中に、あなたの計り知れない御心を汲み取って、あなたの善なる御心を覚り、今後の我が国の浄化と世界の平和に役立てることができるようにさせて下さい。どうか、いたいけない結愛ちゃんの魂を、あなたの御懐の内に憩わせて下さい。主イエス様の御名を通しお祈りいたします。アーメン。